



写真・文 タカヤナギユタカ

右:デミタスカップ(高さ約5.5cm 直径6cm)、ソーサー(直径約13.5cm) 左:コーヒークップ(高さ約7cm 直径約8cm)、ソーサー(直径約16.5cm)  
円工房 石川県加賀市大聖寺魚町35-1 TEL.0761-72-2039

「加賀日和」3号の「つくる・人」で紹介させてもらった加賀市大聖寺の円工房で見つけたデミタスとコーヒークップ。

雪降る寒い日に大聖寺の町屋の蔵を改装した円工房の窓際で、柔らかい冬の光だけで撮影させてもらったこの写真。印刷で質感まで感じてもらえるかどうかかわからないけど、実物の見た感じは円工房の安斎夫妻が意図したとおり、まるで琺瑯の器に思える。

琺瑯というのは不思議な味わいがある。美しいけれど壊れやすいガラスを結合させることで、両者の欠点を補ったもので、昔は琺瑯のポットやカップ、洗面器など、結構身の回りにあったものだ。



### 円工房の琺瑯みたいな デミタス&コーヒークップ

し、1970年代まで盛んに使われたキンチョーやボンカレーなどの琺瑯の屋外看板は、そのレトロな雰囲気から人気を博してマニアの間ではとんでもない高値で取り引きされたりもしている。

さて、安斎夫妻が練乳釉と名付けた釉薬をかけた器は、窯の中で焼かれる間に微妙なムラというか味を出し、器はまさに琺瑯のような透明感のある白を身にまとう。この優しい白い肌のカップに限り無く黒に近い色合いのコーヒーを注いだ時のその色の対比がなんとも言えず良さそうだ。

ソーサーの方は、鉄分を主成分とする鉛釉という釉薬をかけて焼かれていて、柔らかい白とは対照的に、本物の錆びた鉄のように見える。これも渋い色合いで、味があって面白い。

安斎夫妻が東京から大聖寺に移り住んでおよそ1年半。絵付けが命と言われる九谷焼の産地にあつて、二人の作品は優しく、シンプルで美しい。九谷焼のような色絵磁器も素晴らしいものがあるが、色や絵をつけたい無地の器というのもステキなものだ。

底冷えする寒い日に、窓の外の雪を見ながらお気に入りのカップで熱々のコーヒーを啜るすすようにして飲むのは至福の時間に違いない。



九谷焼の雛人形(撮影協力 西長峰堂・小松市)

# 加賀日和

vol.10

## CONTENTS

P03 **これが欲しい!** 円工房のホウロウ釉のデミタスカップ

P04 **エッセイ「愛しの南加賀」** 河畑孝夫さん

P06 **つくる・人 赤絵細描 見附正康さん**

P10 **異彩、華麗、九谷焼の置き物。デコ盛の美。**

P20 **南加賀「喰いもん放浪記」** 加賀市 ドライブイン富士

P22 **まちのお店屋さん パーラー アコ**

P24 **温泉に入ろう 越後屋 山中温泉**

P26 **立ち寄り湯手形**

P28 **日本酒。その一滴に出会うまで**